

H31 年巡回展「長野県の考古学」ミニシンポジウム

○テーマ：土器の登場-旧石器時代終末から縄文時代草創期の文化

旧石器時代の終末、狩猟活動を生業にした人びとは、大きな岩を打ち欠いて槍先形尖頭器を製作しました。やがて弓矢につける石鏃が現れ、土を焼いて作る土器が登場します。旧石器時代から縄文時代にかけて、人々は生きるために道具づくりの技術を高め、“匠”とも呼べる技を磨きあげていきました。

・ミニシンポジウム（主な課題）

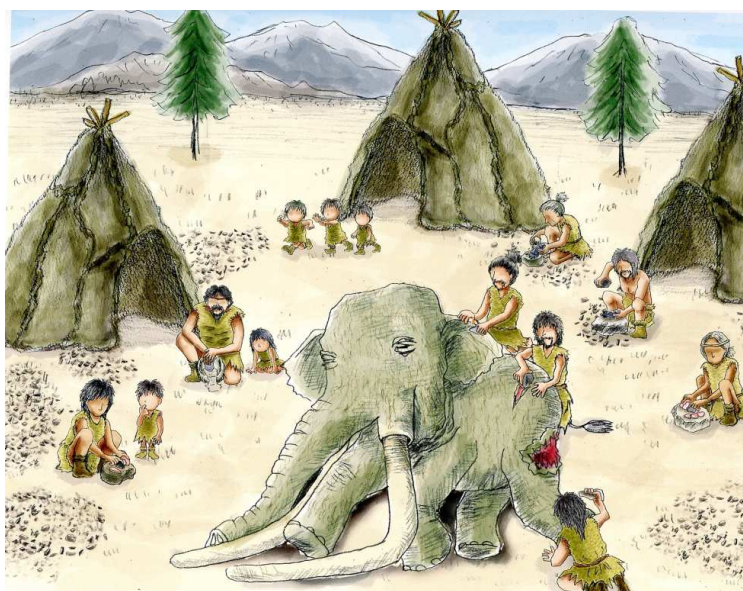
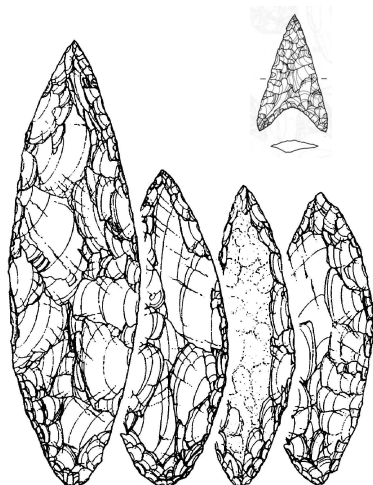
1. 「尖頭器の発生」
2. 「尖頭器の製作と土器の登場」
3. 「石鏃の発生」

パネリスト 大竹憲昭（司会進行）
近藤尚義 町田勝則

○場 所： 長野県立歴史館「講堂」

○日 時： 平成 31 年 4 月 20 日（土） 午後 1 時 30 分～3 時

○受講料： 観覧料が必要です



問い合わせ先

長野県立歴史館 考古資料課

〒387-0007 千曲市歴代260—6

電話:026-274-3992 FAX:026-274-3996

メール:rekishikan-koko@pref.nagano.lg.jp

H P <http://www.npmh.net/>

※ 長野県立歴史館パスポート会員募集中

おトクなパスポートです。詳しくはHPでご確認ください。